

製品名: LTK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13476**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	92kDa

抗原情報

遺伝子名	LTK
別名	LTK; TYK1; Leukocyte tyrosine kinase receptor; Protein tyrosine kinase 1
遺伝子 ID	4058.0
SwissProt ID	P29376
免疫原	抗血清はヒト LTK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 206-255

背景

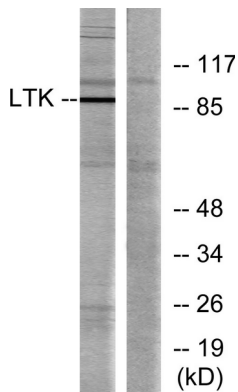
白血球受容体チロシンキナーゼ(LTK) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、チロシンキナーゼの ros/インスリン受容体ファミリーのメンバーです。タンパク質のチロシン特異的リン酸化は、細胞の成長と分化につながる多様な経路を制御す

る鍵となります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008年10月]、代替産物:追加のアイソフォームが存在するようです、触媒活性:ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能:このタンパク質の正確な機能は不明です。おそらく、チロシンタンパク質キナーゼ活性を持つ受容体です。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。組織特異性:非造血細胞株およびT細胞株とB細胞株で発現する。

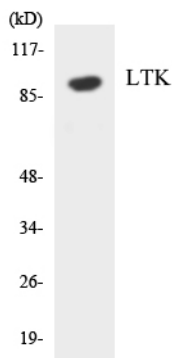
研究分野

シグナル伝達、タンパク質リン酸化、チロシンキナーゼ、受容体チロシンキナーゼ、成長因子/ホルモン、インスリン/インスリン様物質、代謝、エネルギー代謝、経路とプロセス、代謝シグナル伝達経路、エネルギー伝達経路

画像データ



LTK 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



LTK 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。